

令和6年度 第3回川崎市社会教育委員会多摩市民館専門部会摘録

日 時 令和6年12月13日（金）午後2時～4時

場 所 多摩市民館4階第1会議室

出席委員 山本和恵副部会長、羽深東委員、伊藤千津子委員、安陪修司委員、三品勉委員、澤典子委員

事務局 柏原美由紀館長、篠原和則課長補佐、星野弘明担当係長

傍 聴 者 1名

1 開会（星野係長）

2 館長挨拶

3 令和6年度第2回会議録について

資料2のとおり星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

4 議題

（1）多摩市民館における各種事業について

ア 施設の管理運営について

資料3に基づき星野係長から説明

イ 社会教育振興事業の実施計画について

資料4に基づき篠原課長補佐から説明

（2）調査・審議事項について

はじめに、前回、委員から意見のあった多摩市民館の各事業の体系について、参考資料として配布した「川崎市総合計画第3期実施計画」（抜粋）に基づき篠原課長補佐から説明。

（三品委員）

こうした体系を理解していないと議論ができない。総合計画の基本構想、基本計画は市が取り組むべきことが網羅的に掲載されていると思う。事務局の説明では市民館の事業は基本政策2の「子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり」の政策3「生涯を通じて学び成長する」の中に位置付けられているとのことだが、これ以外にも市民館でやるべきことがあるのではないか。

（柏原館長）

市民館が事業として扱う分野としては、子育てから防災、まちづくりなど幅広いが、こうした事業も基本政策2の政策3に位置付けられた社会教育振興事業として行っているものである。事業の実施要綱に基づき様々な目的やテーマを扱い事業を行っている。

（三品委員）

基本政策2は「子どもを安心して…」とあるので、ここだけでは市民館の事業が網羅されていないように思えるが。

（篠原課長補佐）

基本政策2のタイトルだけを見ると子どもを対象としているように見えるが、内容を見ていただくと子どもだけでなく大人も対象とした政策となっていることが御確認いただける。

(三品委員)

理解した。専門部会では今後市民館が何をしなくてはいけないのか、ユーザーとしては何をやりたいのか、ということを併せて検討する必要がある、そのために市民館の事業体系を理解することが大事だと話をしてきた。

(伊藤委員)

前回専門部会で、市民館として目指すべき指針などがあると良いということを言ったが、色々調べると既に指針となるようなものが既にあることが分かった。今日も総合計画という壮大な計画の話を聞き、この計画の中に「たま学びのフェア」もあると思うと、努力して実施する価値があると改めて思った。

(安陪委員)

総合計画を見ると、社会福祉協議会や区役所地域見まもり支援センターでも同じような取組を進めているが、市民館の立場でこれだけの事業を行うのは大変だと思う。子どもから高齢者までともに暮らせる明るい地域づくりに貢献しようと活動する団体も多くあり、そうした方と連絡を取り合いながら市民館での講座を行っている。また、市民館に集まるには地域的に遠い方たちに向けて出前講座も行われている。出前授業の良し悪しを言うわけではないが、会場が市民館よりも遠方になってしまうと参加をやめてしまう人も多々いるかもしれない。

市民館外で講座を行うとしたらどういう範囲ならできるのか。これまで長沢地区や宿河原地区において町内会館を使用して実施していると思うが、他に利用できるとすれば大手企業の集会所、いこいの家など。こうしたところでも開催は可能だと思うが、会場確保には多くの労力を費やさなくてはならなくなる。講座の実施は会場と取り扱う課題のタイトルが重要な要素となる。こうした要素が的確にピックアップされた講習等が増えることを望んでいる。範囲が広いだけに吟味することは難問であると思つづくと思った。

(篠原課長補佐)

仰るとおり会場選びは大切である。前期の専門部会で出前講座について様々な議論をいただき、長沢地区でモデル実施し、今回は稲田地区で実施した。来年はまた違う地区で実施し、開催場所はこういうところが良いのか調べながら各所を回り、区内の様々な方が講座に参加できるようにしていきたい。こうした取組を市民館で開催する講座の充実と併せて進めていきたい。

(安陪委員)

それぞれの地域ごとに人口構成も違うと思うが、多摩区は新規流入者も多い。こうしたことも考慮しながら、取組を進めていただきたい。

(柏原館長)

会場が違えば、備えている設備や広さなどもすべて異なるし、地域が違えば抱えている課題も違ってくる。市民館が出向いていくことがもっと普通のこと、日常のことと認識いただけるようになれば、地域の方から、こういう会場があるからこういうテーマで講座を開催してほしいといった声もいただけるようになると思う。そうすればより地域に即したテーマで、会場選びもそこまで労力をかけることなく開催していけるようになると思う。試行錯誤しながら取り組んでいきたい。

(山本副部長)

この間、地域教育会議の集まりがあり、こども文化センターの館長に話をしていただいた際に、同センターを大人の人にも利用してほしいが、そのことが浸透していない。子供のための施設だと皆さん思っていて利用していただけないという話をされていた。管轄は違うかもしれないが、連携できれば道も開けるのではないかな。

(柏原館長)

調査・審議事項の意見交換に入る前に、今期専門部会の調査・審議の進め方について説明をさせていただきたい。

資料5に基づき柏原館長から説明。要旨は次のとおり。

- ・第1回、第2回専門部会で皆様からいただいた意見をまとめると、「市民に行き届く広報」や「指定管理制度の導入」に関して委員の皆様の関心が高かった。今期の専門部会ではこれらの課題について審議していくこととしてはどうか。
- ・話し合いを進めていく中で新たな関心ごとや課題などが見つかった場合は、その内容も含めて審議を進めていければよいと思う。

(伊藤委員)

駅から市民館までマンションが多くできるなどして、人の流れが変わっているようだ。セブンイレブンの辺りで人の流れが止まるから、市民館までたどり着かないという話を聞いた。たま学びのフェアでも色々試行錯誤をしているが、市民館までもっと人を吸い寄せるようなことができればよいと思う。市制100周年を記念してホールで素晴らしい催しが行われていたが、人が集まらなかったという話も聞いた。マンションがあればできているから人は増えているはずなので、人の誘導やPRができればよい。

(篠原課長補佐)

駅からセブンイレブンまでは行けるが、そこから市民館までの行き方が分からなくなってしまう、迷ってしまうということか。

(伊藤委員)

市民館はあれだけ大きな建物なのに分からなくなってしまうようだ。セブンイレブンのところまでは賑わっているが、賑わいを市民館まで広げて人を誘導できないものか。

(安陪委員)

駅からの商店会の通りの人は市民館でやっている催しのことは分からない。認識ができない。商店会の人には市民館の催しにもっと関心を持つように言っている。そうすれば、市民館に向かう人や利用する人と会話ができると思うのだが、なかなか浸透していかない。市民館の広報は一般的な広報手段に頼りきりで積極的なPRができていないと商店会の人には思っている。商店会の会長などと催しの情報を共有して協力関係が築ければよいと思う。

(三品委員)

市民館で様々な催しを行うにあたっては、市民館スタッフは事業の体系づくりをしたり事業の必要性を説明したりしなくてはならず非常に大変である。今の体制では人数も足りないの、先ほどの広報・PRについても指定管理者に入ってやってもらわなければとてもできないのではないかな。

(伊藤委員)

たま学びのフェアはここ数年は市民館に頼らずに実施してきているので、我々はこれからも努力していく。広報についても6500部用意して町内会で回覧していただいております、これからも自分達で情報を得ながら取り組んでいく。

(澤委員)

指定管理になると市民館の運営について、市の職員が指示を出してそれを指定管理者が実施していくこととなるのか。

(柏原館長)

市民館の運営はあくまで指定管理者が行う。委託のように市の職員がいて指定管理者もいて両方で運営するということではない。市民館イコール指定管理者が運営する施設ということになる。市民館として実施する事業も川崎市の計画や方針に従って指定管理者が実施主体となる。市は指定管理者に対してモニタリングを行う。

(安陪委員)

基本的な計画づくりなどは市が行い、運営は指定管理者が行うということ。

(柏原館長)

個々の事業の企画やそれを実施していくための計画は指定管理者が行う。

(篠原課長補佐)

指定管理者は年度ごとに事業の計画を立てるが、こうした計画は市とも協議をしながら作成していくこととなる。

(三品委員)

計画を決定するのは指定管理者か。

(柏原館長)

個別事業の計画は指定管理者が決定する。

(山本副部会長)

時間となったので、他に御意見などなければ次の議題に移りたいと思う。本日の意見を踏まえ、次回以降更に議論を進めていけるとよい。

5 その他

星野係長から次回専門部会の日程（令和7年2月16日（日））について説明した。また、同日に開催する、多摩市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会及び各委員に審査いただく際の流れや評価のポイント等を篠原課長補佐から説明した。

(羽深委員)

多摩市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会での審査について、営利事業ではないので、必ずしも人が多く集まる取組でなくても、対象が少数の人でも求められている取組もあるのではないかと。人がたくさん集まるから良いということだけでなく、公的な機関が行うものと考えたと少数の意見や想いも大切にしたいと思う。こうした考えで評価をしたいと考えているがどうか。

(柏原館長)

企画提案に向けたポイントとして、多くの市民が学ぶことを望んでいる企画、広く地域へ拡がることが期待される企画であることを挙げているということはあるが、課題の捉え方がしっかりとしていれば対象

が少数であったとしても、取り上げることに意義があればその点を評価をしていただいて良いと思う。
(篠原課長補佐)

講座に出席する人が少なくても良い事業はある。少数の人が深く学んだこと、事業の成果をどのように情報発信して広く社会に共有していけるか、その点を加味していただきたいと思う。

(柏原館長)

企画提案をしていただく際には、どのように公益性を担保するかなど、市民館職員が相談に乗りブラッシュアップをしながら書類を作りあげていただくこととなる。

6 閉 会（山本副部長）